

2020年9月10日

熊本県知事 蒲島 郁夫 様

熊本県による五木村振興策に関する意見書

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

美しい球磨川を守る市民の会

代表 出水 晃

日々、わたしたち県民のためにご尽力下さることに敬意を表します。

私たちは、清流球磨川・川辺川を守り、住民主体による川づくり、地域づくりを支援してきた市民グループです。

1. 12年前のダム反対表明は、民意を受けた英断

2008年9月11日、貴職は「球磨川は県民の宝」として川辺川ダム計画白紙撤回とダムによらない治水対策を極限まで追求するべきと表明し、その直後の世論調査では県民の85%から支持を得ました。

これは川辺川ダム事業が流域社会に「苦難と対立の歴史」をもたらしてきたことへの反省を踏まえ、「住民独自の価値観を尊重することによって、人や地域が輝き、真に豊かな社会が形づくられ」という貴職の信念に基づき、なされた判断でした。流域住民や県民の民意を踏まえたものであり、県政史に残る優れた英断だったと高く評価します。

貴職におかれましては、2008年9月11日の「球磨川は県民の宝」とされた初心に立ち返り、揺らぐことなく、合意形成のプロセス、流域住民に対する情報の全面公開と説明責任を最重視した検証と判断をして下さるよう要望します。

2. 県は五木村を再び翻弄してはならない

12年前、川辺川ダム白紙撤回を表明された直後から、貴職は自ら本部長となり、ダムに翻弄されてきた水没予定地・五木村に対して、県政をあげて人的・予算的措置を含む地域振興支援に尽力されてきました。

これは、それまで40年以上に亘り、県が国と同じ立場に立ち、村に対しダム計画受け入れを迫ってきた結果、村の中に大きな混乱と対立を生み、急激な人口流出など地域の

衰退を招いたことへの深い反省に立たれ、県としての責任を果たすためであったはずで
す。

7月の球磨川水害以降の「川辺川ダムも選択肢の一つ」という貴職の発言は、現在、
五木村民の間に大きな不安と動揺をもたらしています。県が国と同じ立場に立つことは、
かつて、貴職が深い反省をされた歴史が繰り返されることとなります。そのことが再び
12年前に時計の針を戻し、これまで積み重ねられた五木村の地域振興の歩みを白紙に戻
し、村の未来を先の見えない混沌の中へと招き入れ、翻弄しかねないことに、私たちは
強い危惧を感じています。

五木村の人口は、計画発表時の約5,000人から、現在約1,000人にまで激減し、高齢
化も大幅に進んでいます。村にとって、将来に向けた地域づくりは待ったなしの課題で
あり、その停滞は村消滅の危機に直結しかねません。

貴職は、再び五木村を翻弄すべきではありません。水没予定地を孤立させ、下流域と
対立するような構図を再び作るべきではありません。

水害検証を進める中で、地域社会に不要な混乱や対立をもたらす案に対しては、県知
事として特に慎重な姿勢で挑まれますよう要望します。

去る8月31日、私たちは「第1回球磨川豪雨検証委員会に対する抗議と提言」を検証
委員会に提出いたしました。

その中に記した通り、私たちは、流域で川とともに暮らし続けられるための水害対策
と持続的な地域社会づくりが重要だと考えています。地球温暖化時代の大水害に対して、
ダムや堤防による水害対策は限界を迎えています。効果が限定的で、未曾有の降雨には
対応できず却って危険を増すダムではなく、実効性のある水害防止対策を、流域住民の
声を反映しながら進めることを私たちは求めています。流域全体で水害リスク対策を考
え、幅広い視点から川と地域を捉える必要性は、複数の研究者からも指摘されている通
りです。

貴職におかれましては、過去の五木村の苦難の歴史と、それに向き合い、村と共に地
域振興に尽力されてきた県政の歩みを振り返り、住民こそが主人公となる地域づくりの
姿勢を全う下さることを強く要望致します。

以上

【連絡・問合せ先】

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会
〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13
TEL:090-2505-3880 (中島)